

第2回 ソフィスト、ソクラテス

- 1 A ペルシア戦争後のアテネを中心に、政治的教養・技術を教授して金銭を受け取っていた教師集団で、知恵のある人という意味をもつ人びとを何というか。 ソフィスト
- 2 A ソフィストが政治的教養として教授科目の中心においた、人びとを説得するための技術を何というか。 弁論術
- 3 B 論理をあやつり故意に相手を虚偽に導く議論で、ソフィストが大衆を説得するために用いた方法を何というか。 詭弁
- 4 A おもにアテネで活躍した人物で、「人間尺度論」で知られる代表的ソフィストは誰か。 プロタゴラス
- 5 A 各人がそれぞれに感じたり思ったりしたことは、それぞれに正しいというプロタゴラスのよく知られたことばは何というか。 「人間は万物の尺度である」
- 6 B 各人の判断や認識は各人がおかれた状況によって異なり、絶対的な真理は存在しないとする、プロタゴラスに代表されるような思想的立場を何というか。 相対主義
- 1 A 古代アテネの街頭にたつて、人間にとってもっとも大切なものは何なのかを問いつづけ、無知の自覚と魂への世話を説き、のちの人びとから「人類の教師」とよばれた前5世紀ごろの哲学者は誰か。 ソクラテス
- 2 B ギリシア北方のアポロン神殿の巫女が下す託宣で、「ソクラテス以上の知者はいない」というお告げを下したことで知られてる神託を何というか。 デルフォイの神託
- 3 A 問い手と答え手とがともに承認した自明の前提から出発し、短い問いと答えを重ねていくソクラテスの真理探求の方法で、対話法とか産婆術(助産術)とかよばれている方法を何というか。 問答法(ディアレクティケー)
- 4 A 人間にとってもっとも大切な善美のことがらについては知らないのだという自覚のことで、ソクラテスが愛知(哲学)の出发点とした知を何というか。 無知の知
- 5 A ソクラテスが無知の自覚をうながすことばとして理解した、デルフォイの神殿の柱に銘記されたことばは何というか。 「汝自身を知れ」
- 6 B 真の知者は神であり、人間は無知を自覚して知を愛し求める者であるとソクラテスは考えたが、この知を求める者(哲学者)を何というか。 愛知者(フィロソフォス)
- 7 A 人間にとって大切なことは、ただ単に生きることではないという、ソクラテスの生き方を表現したことばは何というか。 善く生きること
- 8 A 金銭や名誉に気をつかうのではなく、心がいかに善くあるかということにこそ心をくばるべきだという、ソクラテスの説く生き方を何というか。 魂への配慮
- 9 A 本来はそのもののもつ卓越性という意味であるが、ソクラテスが人間の卓越性として勇気や正義や節制などを意味することばとして語った、精神的善さのことを何というか。 徳(アレテー)
- 10 B 徳とは何であるかを知ることなしには、真に善く生きることはいできないという、ソクラテスの考えを何というか。 知徳合一
- 11 B 有徳な行為というのは、徳とは何であるかを知ってはじめて可能になるという思想を何というか。 知行合一
- 12 C 何が徳なのかを真に知るものこそ、幸福になれるという思想を何というか。 福德一致
- 13 A 国家の神々を信じず、青年を墮落させているという告発を受けたソクラテスが、自らの信念と愛知の活動をのべる場面を描いたプラトンの作品を何というか。 『ソクラテスの弁明』
- 14 B 死刑の確定した獄中のソクラテスに脱獄をすすめてきた友人に向かって、不正に対して不正をもって報いてはならないと語るソクラテスの姿を描いたプラトンの作品を何というか。 『クリトン』
- 15 A ソクラテスとその仲間が恋(エロース)について議論する場面を描いたプラトンの作品を何というか。 『饗宴』
- 16 C 死刑直前のソクラテスが仲間たちと魂の不死について語りあう場面を描いたプラトンの作品を何というか。 『パイドン』
- 1 A ソクラテスから深い影響を受け、彼の裁判にも立ちあい、その思想を継承してイデア論を展開した前4世紀ごろの哲学者は誰か。 プラトン
- 2 A 魂の三分説や哲人政治など、理想国家について書かれたプラトンの作品を何というか。 『国家』

3 A	ソクラテスが「〜とは何か」と問いかけた事物の本質のことで、プラトンが事物がそれ自身であるための原型と語ったものを何というか。	イデア
4 B	プラトン哲学において現象界の事物の原型や魂のような、永遠で完全なものの存在する世界を何というか。	イデア界(叡知界)
5 B	叡知界に対する現実界のことで、イデアを分けもつことによって個物が個物となる不完全で有限な世界を何というか。	現象界
6 A	これによってすべての存在物が存在し、すべての存在物がこれを目的としているイデアのなかのイデアを何というか。	善のイデア
7 C	現象界に住むわれわれは、洞窟のなかでその壁に映し出される外の世界の影を真実の存在だと思って生きている囚人のようなものだという、イデアと現象の関係を喩えたプラトンの比喩を何というか。	洞窟の比喩
8 B	人間の魂は肉体と一緒にになって不完全なものとなったが、現象界の美しいものや善いものの一部を見ることを契機として、かつてともにいた真実在(イデア)を思い出すというプラトンの考えを何というか。	想起(アナムネーシス)
9 A	完全で永遠なもの(イデア)を憧れる情熱のことで、キリスト教の完全なもの(神)からの愛であるアガペーと比較される真理への愛を何というか。	エロース
10 A	人間の魂には真理の認識にかかわる部分と、行為や決断にかかわる部分と、感覚や感情にかかわる部分がある、というプラトンの霊魂観を何というか。	魂の三分説
11 A	動物と人間とを画然と区別する、ことばを用いて論理的に思考する能力のことで、プラトンではイデアの認識にかかわる、魂の不死なる部分とされているものを何というか。	理性
12 A	プラトンが行為や決断にかかわる、魂の可死なる部分としたものを何というか。	気概
13 A	プラトンが感覚や感情にかかわる、魂の可死なる部分としたものを何というか。	欲望
14 A	プラトンの魂の三つの部分と関連する四つの徳を何というか。	四元徳
15 A	魂の三分説において理性・気概・欲望の徳を、それぞれ何というか。	知恵・勇気・節制
16 A	魂の三分説において理性・気概・欲望の徳が調和したときに実現する徳を何というか。	正義
17 A	魂の三分説と四元徳の考え方から導かれた、プラトンの調和のとれた美しい国を何というか。	理想国家
18 A	プラトンの国家論で、理性にすぐれ知恵の徳をもつ人によって構成される階級を何というか。	統治者階級
19 A	プラトンの国家論で、気概にまさり勇気の徳をもつ人によって構成される階級を何というか。	防衛者階級
20 A	プラトンの国家論で、欲望がまさり節制の徳を必要とする人によって構成される階級を何というか。	生産者階級
21 A	理想国家は、哲学者が統治するか統治者が哲学するかによって実現するという、プラトンの政治論を何というか。	哲人政治(哲人王思想)
22 A	プラトンの思想のように、事実よりも究極的な価値を重んじ、現実よりも理想に重きをおく思想的立場を何というか。	理想主義
23 A	前4世紀ごろ、アテネ郊外にたてられたプラトンの学園を何というか。	アカデメイア